

## 「インクルーシブな学校運営」通信 第13号

カリキュラム・マネージャー

### スノーアート、迷路、雪の階段を共同制作

9日(月)、中高養3年生と更農1年生が共同で「スノーアートビレッジなかさつない2026」の作品づくりに取り組みました。

例年、中高養3学年の「総合的な探究の時間」で行われている地域貢献学習ですが、本年度は、2日日程のうち1日目に更農との「交流および共同学習」が実施されました。

#### ● 実行委員会が中心となって準備

準備は3学期開始直後から始まり、中高養生徒の実行委員会でスノーアートのデザインや迷路の形などを決定し、村在住のスノーアーティスト梶山さんの話を聞いたり、グループの活動内容を確認したりするなどして共同制作当日を迎えました。

#### ● 中札内村民プールに集合

9日、朝9時過ぎに中高養生徒は徒歩で、更農生は貸し切りバスで学校を出発、会場の村民プール駐車場で合流しました。

生徒約70名(中高養35名、更農35名)が集まったところで、主催者の中札内村観光協会の方から「スノーアートビレッジ」に協力してくれたことへの感謝の言葉が述べられました。続いて、中高養、更農それぞれのリーダーから「協力して頑張りましょう」と呼びかけがあり、スノーアート、迷路、展望用の階段づくりの3グループに分かれ作業が始まりました。

#### ● 汗だくの作業

スノーアートと迷路のグループは、膝の高さを超える雪原を一列になってラッセル、フクロウの輪郭や迷路の通路を形作っていきました。また、作品を鑑賞するための展望用の階段づくりでは、利用する駐車場の雪が重機で集められて硬く締っており、思い通りの形にするためにかなりの力仕事になりました。

この日の中札内村は快晴、早朝は放射冷却現象でマイナス20℃以下まで冷え込み、作業開始時でも会場周辺でマイナス15℃位ありましたが、雪と格闘する生徒たちからは、あちらこちらから「暑い!!」という声が聞こえてきました。



スノーアートのデザイン



## ● いたるところで交流

更農との共同制作は初めての試みでしたが、両校の生徒が声を掛け合って作業を行ったり、休憩時に雑談をするなど終始なごやかな雰囲気の中で行われました。

11時40分、1日目に予定していた作業がすべて終了し、更農生が乗ったバスが発車する際には、中高養生全員が集まり手を振って見送りました。

生徒の様子を見ていた観光協会の方は「来年も是非お願いしたいです。」と話されていました。



## ● 休日…多くの家族連れが来場

作品が完成した翌日は「建国記念の日」で、観光協会のPRもあって村民の方をはじめ多くの方が「スノーアートビレッジ」を訪れ、来場者のほとんどが両校の作品の所にも足を止め鑑賞していました。

「雪の迷路」では子どもたちが迷路内を駆け回り、楽しそうに歓声を上げていました。家族で来ていた男性は「子どもが楽しめる場所をつくってもらい来てよかったです。」と話されていました。



## 「モデル事業」終了後を見据えた検討も始まる

19日（木）に第6回連携協議会が開催され、今後の「モデル事業」の方向性について話し合われます。

連携協議会では更農と中高養の合同「交流および共同学習」委員会でまとめた「令和7年度の成果と課題」を示して意見をいただくことにしています。

一方、両校の学校長間では更農と中高養の長期的な連携について話し合いが行われており、3年間の「モデル事業」の成果を令和9年度以降も継続・発展させる方向で確認、今後、そのための条件整備等について検討を進めるとのことです。

第6回「共に学ぶ会」 3月16日（月）15：45～テーマ「愛着障害について」

\* 全国の「モデル事業」の取組としてオンラインで行う本校の「共に学ぶ会」が注目されています。  
多くの先生に実際の様子を知っていただきたいと思います。 （「交流及び共同学習」委員会）